

宗岡第二小学校だより

令和7年10月号

No. 6



学校教育目標

よく考える子 やさしい子 たくましい子



まなざしがつなぐ心

校長 赤沢 直幸

「やっと暑さが収まってきた！」 猛暑の終わりが見え、朝夕には少しずつ涼しさが感じられるようになり、季節の移ろいを感じる頃となりました。9月の後半に入ると、やっと休み時間に校庭で遊べるようになりました。校庭での体育の授業をする様子も見られるようになりました。また、教室から聞こえる子どもたちの声にも、2学期の生活に慣れ、学習や行事に励む力強さが感じられます。

さて、10月10日は「目の愛護デー」です。日本語には、目に関する表現がたくさんあります。「目をかける」「目を配る」「目からうろこが落ちる」「目の届くところ」など、思い浮かぶものも多いのではないのでしょうか。それだけ、昔から「目」が人と人との関わりや、物事の理解に深く結びついてきたことが分かります。

目の役割というと「見ること」がまず浮かびますが、実はそれだけではありません。人と話す時に言葉と同じくらい大切なのが「目と目を合わせること」、いわゆる「アイコンタクト」です。アイコンタクトによって、「しっかり聞いているよ」「あなたのことを大切に思っているよ」といった気持ちが、言葉以上に相手に伝わります。逆に、目を合わせないと「関心がないのかな」「本当に伝わったのかな」と不安に感じさせてしまうこともあります。

学校生活の中にも、アイコンタクトが生きる場面はたくさんあります。授業中に先生の問いかけに応じるとき、ただ「はい」と答えるだけでなく、相手の目を見ることで「分かりました」という気持ちがしっかり伝わります。友達同士の話し合い活動でも、目を合わせながら意見を聞くことで、「あなたの考えを大切にしているよ」という姿勢が相手に届きます。運動会のリレーでは、バトンを渡す瞬間に目と目を合わせることが、信頼感や安心感につながります。合唱や合奏でも、指揮者や仲間の目を見ることで、呼吸やリズムが合い、美しいハーモニーが生まれます。

また、日常のささやかな場面でも、アイコンタクトは大きな力を発揮します。廊下ですれ違ったときに目を見て「おはよう」とあいさつすること、困っている友達に目を配り、気付いたら声をかけること。そうした積み重ねが、互いを思いやる温かい学校の雰囲気をつくり出していきます。

一方で、現代の生活では目を酷使しがちです。長時間のスマートフォンやゲームは、目の疲れや視力の低下につながります。時には画面から離れて外の景色を眺めること、自然の光の中で体を動かすことが、目を守ることにもつながります。そして何より、「目を通じた心の通い合い」を大切にしてほしいと思います。

「目は心の窓」と言われるように、私たちの気持ちは目に表れます。子どもたちがこれからの学びや行事の中で目を輝かせ、互いに気持ちを通わせながら成長していくことを願っています。今月行われる運動会。子どもたちの「輝く目」を様々な場面で見られることを楽しみにしましょう。